

金融情報システム

我が国初のC/S方式による「新国際業務システム」本格稼働

金融ビッグバンに対応できる国際業務関連のシステム基盤を確立

広島銀行

広島銀行では、日本ユニシスと共同で金融ビッグバンに対応できる、我が国初のクライアント/サーバ方式による本格的な「新国際業務システム」を開発し稼働させた。

これにより、本年4月から施行される「改正外為法」によってもたらされる国際業務関連の経営環境の変化に、的確かつ柔軟に対応できる情報システム基盤が確立された。

株式会社広島銀行

激変する金融環境に的確に対応するため長期経営計画「スーパープラン21」を指針に、真に価値ある「グレーターひろぎん」の実現を目指して、サウンド・バンキング(健全経営)を堅持しつつ、地域に密着した総合金融サービスの提供に努めている。
本店所在地=広島市紙屋町1-3-8
代表者=宇田 誠頭取

預金量=5兆2,649億円
店舗数=国内本支店182、出張所38、代理店7、海外支店3、海外駐在員事務所1
従業員数=4,201人
使用機種=エンタープライズ・サーバ「UNISYS2200/500シリーズ」、WindowsNT搭載PCなど
97年3月31日現在

ビッグバンを睨みシステム対応力の強化・拡充が不可欠に

日本版ビッグバンの先駆けとして本年4月から「改正版外為法」が施行され、外為業務の大幅な規制撤廃と自由化が実現し、国際業務はその荒波に真正面からさらされることになる。

例えば、国内外為業務では外国銀行やコンビニエンス・ストアなど異業種・異業態の本格的な市場参入により熾烈なコスト競争、新商品・新サービス開発競争に突入することが予想される。

また、国際金融業務ではジャパン・プレミアムなどで収益環境は悪化しており、リスク管理機能を徹底した上でのデリバティブ(金融派生商品)の活用など新しい高収益分野の開拓が求められている。

国際部国際企画課課長 楳野 哲彦氏は、「こうした激動する金融環境の中で、国際業務を維持し、かつ収益の柱とするためには、新商品開発や新たな収益確保への取り組み、リスク管理機能の強化などが緊急の課題となっており、最新情報技術を駆使したシステム対応力の強化が不可欠となってきた」と語る。

迅速な新商品対応やリスク管理の徹底などを狙いにシステムを一新

しかしながら、従来の外為システム



広島銀行本店

は10数年前に導入したシステムであり、現状とマッチせず、次のような問題が顕在化してきた。

- * 帳票類が膨大で、各種手計算や各種コード入力を必要とし、熟練者でないと扱えない
- * システム機能の改善に時間がかかり、迅速な新商品対応などが困難である
- * オン/オフバランスの一体化、マーケット・リスクなどのシステム対応が遅れ、リスク管理が未整備である。そこで、金融ビッグバンへの的確な対応を目指し、次の狙いのもとに外為システムを一新することになった。新商品・新サービスへの迅速対応お客様の満足度の高い新商品開発を迅速化し、早期に市場に投入することにより、顧客サービスの向上を図る。事務コストを極小化し、コスト競争に挑む



新システム稼働式でテープカットする広島銀行 宇田 誠頭取(右)と日本ユニシス 梶川 昭一常務取締役

異業種・異業態の参入はコスト競争の激化となるが、新技術を前提とした“BPRによる徹底したフロー改善”と機器の操作性向上による“低コスト入力操作者へのシフト”でトータルコストの低減を図る。

リスク管理の徹底

自由化による自己責任時代にマッチしたリスク管理機能の大幅な強化・拡充を図り、高収益分野を開拓する。

豊富な実績や人材、充実した支援体制でユニシスを共同開発先に選定

これらの目的実現に向け、日本ユニシスと共同で新システムを開発することになったが、ユニシスを開発パートナーとして選定した理由について、「“IBS”という国際業務系パッケージを有しており、多くの金融機関で稼働

中など豊富な実績がある。また、国際業務に精通しているSEが他のベンダに比べて圧倒的に多く、かつ全社的な支援体制やプロジェクト管理体制が充実している。



楳野 哲彦氏

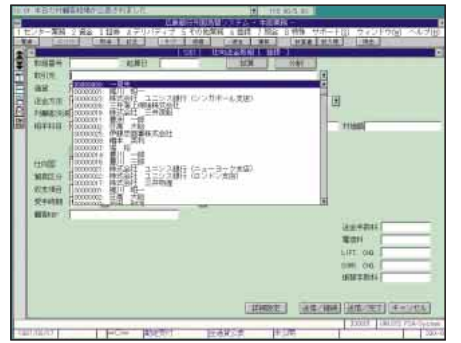
さらに他のベンダが旧システムの改善・改造をベースに提案したのに対し、ユニシスだけは当初よりクライアント/サーバ方式による新規開発を提案するなど提案自体が非常に前向きであった。従来と違った視点で全面的に新しいシステムを構築できる力を持っているのはユニシスだけと判断し開発パートナーに選んだ(楳野課長)。「メンテナンスに対する信頼度でユニシスを選んだ(システム部副部長 竹岡 渥夫氏)。

C/S方式による総合的な国際勘定処理や徹底したリスク管理などを実現

新システムは、外貨預金、外貨貸付、輸出入為替、外国送金、両替といった従来型の国際業務に加え、外国証券、デリバティブ管理を含めた、すべての国際勘定処理を行うシステムで、次のような機能を実現している。

C/S方式による我が国初の国際業務システム

エンタープライズ・サーバ「UNISYS 2200/500シリーズ」とWindowsNT搭載



プルダウン表示画面

PCから構成される、国内初のC/S方式による国際勘定系システムを実現。

熟練者不要の容易な操作性を実現

操作表、コード表、マニュアルもすべてオンライン化し、マウス操作により項目を選んで入力できる。また顧客ごとの優遇を加味した計算処理も自動化しており、国際業務に精通していない初心者でも操作できる。

的確なデータ分析で新商品開発対応が可能

国際情報系データベースを組み込んだことにより、システムの知識がなくても必要な情報を迅速に抽出し、的確なデータ分析が可能。その結果を反映することでスピーディな新商品開発が実現できる。

オン/オフの一元管理や時価会計対応など徹底したリスク管理を実現
従来、バラバラに管理されていたオンバランス、オフバランスの一元管理を実現するとともにデリバティブに全面的に対応。また時価情報をリアルタイムに取り込み、マーケット・リスクなどのBIS 規制、時価会計にも対応し、徹底したリスク管理を実現。

最新情報技術の採用でシステム改訂・機能追加が容易

C/S方式、RDB技術、PC技術、データ本位のモジュール化構造など最新情報技術の採用で、素早いシステム改訂・追加開発が可能。

新システムによるBPRの推進で事務フローを大幅に改善

旧システムでは約200種類もある操作表やコード表、計算書などを参照しながら入力する必要があり、国際業務に精通した熟練者でないと扱うことができなかった。「今回の新システムの活用では、これまでの事務処理の流れを抜本的に改善する、いわゆるBPRの推進を目的の1つに掲げたが、徹底した操作支援、自動計算などの追求により熟練度の低い者でも入力が可能、事務の流れを大幅にカットし処理の簡素化が図れた、必要な時にいつでも必要情報が入手できる仕組みとしたことにより、事務フローの大幅な改善が図られ、本来の外為業務の推進に精進できるようになった。また全体的なコスト低減や省スペース化などの効果も大きい(楳野課長)としている。」